

小 学 校

平 成 4 年 度

# 教育研究員研究報告書

図画工作

東京都教育委員会

平成4年度

教育研究員名簿（図画工作）

分科会	地区	学校名	氏名
A 分科会	港区	本村小	許斐陽子
	大田区	大森第五小	仲村直行
	杉並区	久我山小	◎ 薦谷政子
	荒川区	瑞光小	○ 吉村けい子
	板橋区	上板橋第二小	岩田真
	練馬区	練馬東小	清水文代
	足立区	千寿第二小	□ 安倍啓斎
	葛飾区	綾南小	△ 馬淵百合子
B 分科会	中央区	阪本小	有賀綾女
	新宿区	落合第二小	△ 赤塚由夏
	江東区	臨海小	滝上康之
	町田市	南つくし野小	□ 谷口康裕
	東村山市	萩山小	長澤力
	五日市町	増戸小	加瀬孝一
	八丈町	檜立小	鈴木恒雄

◎全体世話人    ○全体副世話人    □分科会責任者    △分科会副責任者

担当課長 小島 宏                      教育庁指導部初等教育指導課

担当指導主事 清水 満久                教育庁指導部初等教育指導課

研究経過 4, 5, 6月 研究主題の設定, 研究内容と方法の検討, 研究授業

7月 研究仮説, 副主題の設定, 分科会の編成, 研究授業

8月 御岳研究集会（研究全体構想, 事例報告等）

9, 10, 11月 実証授業及び検討, 研究報告書作成

12, 1月 実証授業及び検討, 発表内容の検討, 授業案の検討と作成

2月 研究発表会（港区立本村小学校）

# 目 次

I 研究主題	2
1 研究主題設定の理由	2
2 研究の概要	2
II 研究の内容	4
1 研究の全体構想	4
2 研究の内容	4
III 分科会の取り組み	6
1 A分科会<自分らしい思いを生かし、豊かな造形感覚をはぐくむ指導法の工夫>…	6
(1) 具体的手だて	
(2) 具体的な題材と主題にせまる指導の手だて	
(3) 実態調査について	
2 B分科会<自分らしい発想を生かし、豊かな表現力をはぐくむ指導法の工夫>……	9
(1) 具体的手だて	
(2) 具体的な題材と主題にせまる指導の手だて	
IV 実践事例	12
第2学年 (B分科会)	12
「テープをなかまに、ぼうけんのたびへ」	
第3学年 (A分科会)	15
「空からのお客さま」	
第4学年 (A分科会)	18
「南の国からのおくりもの、形に変身!かざりに変身!」	
第5学年 (B分科会)	21
「こんな世界があったらいいな」	
V 研究のまとめと今後の課題	24

# Ⅰ 研 究 主 題

## 自分らしい思いを生かし、自ら表現しようとする子供の育成

### 1 研究主題設定の理由

今、私たちを取り巻く社会は刻々と変動しており、以前の概念では考えられないほど価値観や生活環境も移り変わっている。高度な科学技術によりもたらされる様々な情報、急速に進む国際化、自然環境の悪化等、子供を取り巻く周囲の環境は、我々大人が子供だった頃からは比べようもなく変化しており、それと共に今の子供たちが大人になる21世紀は、従来の法則や考え方ではその進展の方向も予測できるような状況ではなくなってきている。そこで、このような時代に柔軟に対応し、心豊かに主体的、創造的に生きていける子供の育成が、学校教育に切に求められている。すなわち、これからの教育では、一人一人が自分のよさや可能性を発揮し、生涯にわたって豊かな自己実現を目指せるようにすることが重要になってくる。その中で創造性を養う図画工作科の担う役割は大きい。これからの社会に対応するため図画工作科で養う能力として次のことを重視したい。

- (1) 様々な周囲の状況を適切に判断し、敏感にとらえることのできる感性や造形感覚。
- (2) 得た情報を整理し、自分なりの発想や考えから魅力ある新しい価値を生み出す構想力。
- (3) その価値をそれぞれの表し方で、周囲の人や環境に働きかけ、伝えるための表現力。

このような自分のよさとしての能力を伸長し、子供の本質的な創造力に目を向けた授業の展開をつくり出すことが必要である。また、その中での活動や成果を、周囲にも自分にも価値ある充実したものとするためには、その動機であるテーマが子供自らの内発的な夢や憧れ、願い、愛情のある思いに根ざしたものであることが何にもまして重要である。

以上のような観点から本研究では、「よりよく生きたい、より自分らしく在りたい」という願いや夢から生まれる子供一人一人の思いを生かし、主体的な創造性に根ざした造形表現ができるよう指導の手立てを模索することにし、上記の研究主題を設定した。

### 2 研究の概要

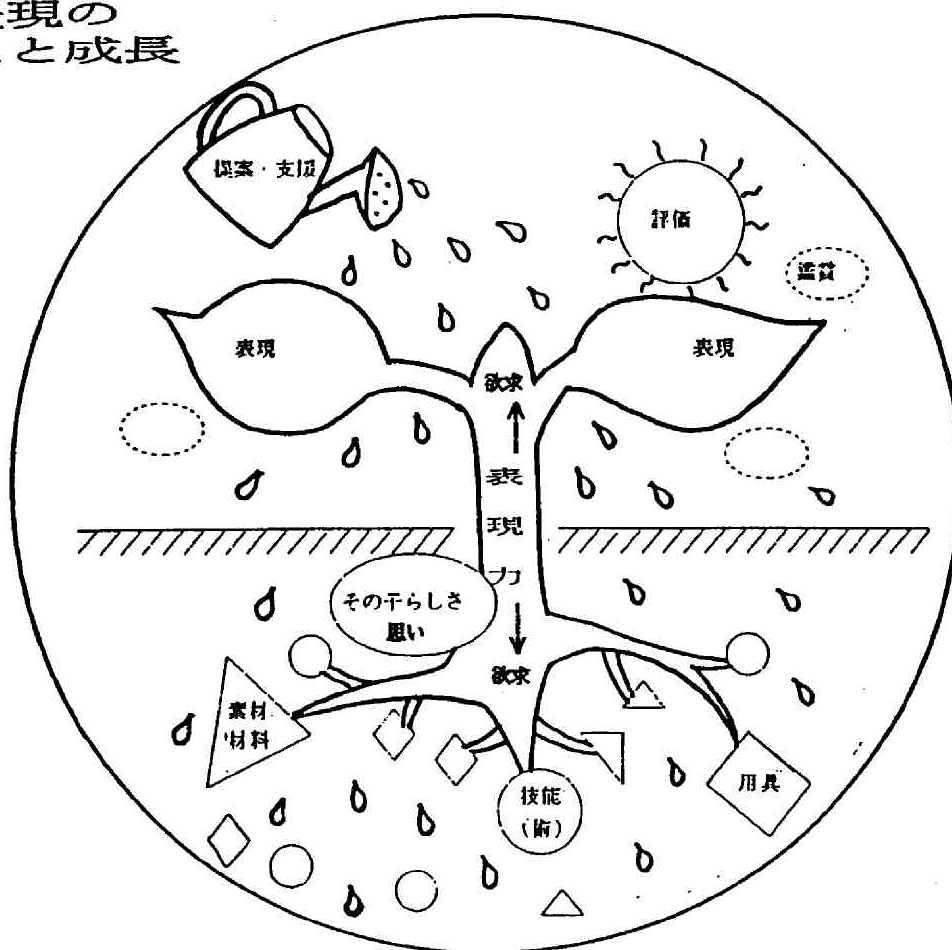
図画工作科における表現活動を、一人一人のよさや自分らしさを生かした主体的なものにするためには、まず個々の子供の存在を尊重し、その思いや願いを認め、支援していく教師の姿勢や学習環境が保障されなければならない。その上に立ってこそ子供たちは「思い」の芽をふくらませ、様々な試行錯誤を経ることによって、自ら表現力を伸ばすことができる。

その実現に向けてこれからの図画工作科の学習は、指導する側の一方的な題材の提示や、技術、技法伝達型の指導といった土壌からの大きな変革を求められている。

そこで本研究は、豊かな自己表現のために、自分のよさを認識し、よさを生かして、自分らしい自由な表現活動ができるように、支援していく指導の在り方に焦点を当てた。そのために、子供のもっている思いをどの様にして汲み取り、励まし、拓げていくかという『造形感覚』をもとにした掘り起こしと、子供が思いを具現化していくときに自分らしい表現を求めて色々な試みや、選択や、工夫をしていくことのできる、『主体的な表現力』の拓がりを目指して具体的手立てを模索し、研究を進めていくことにした。

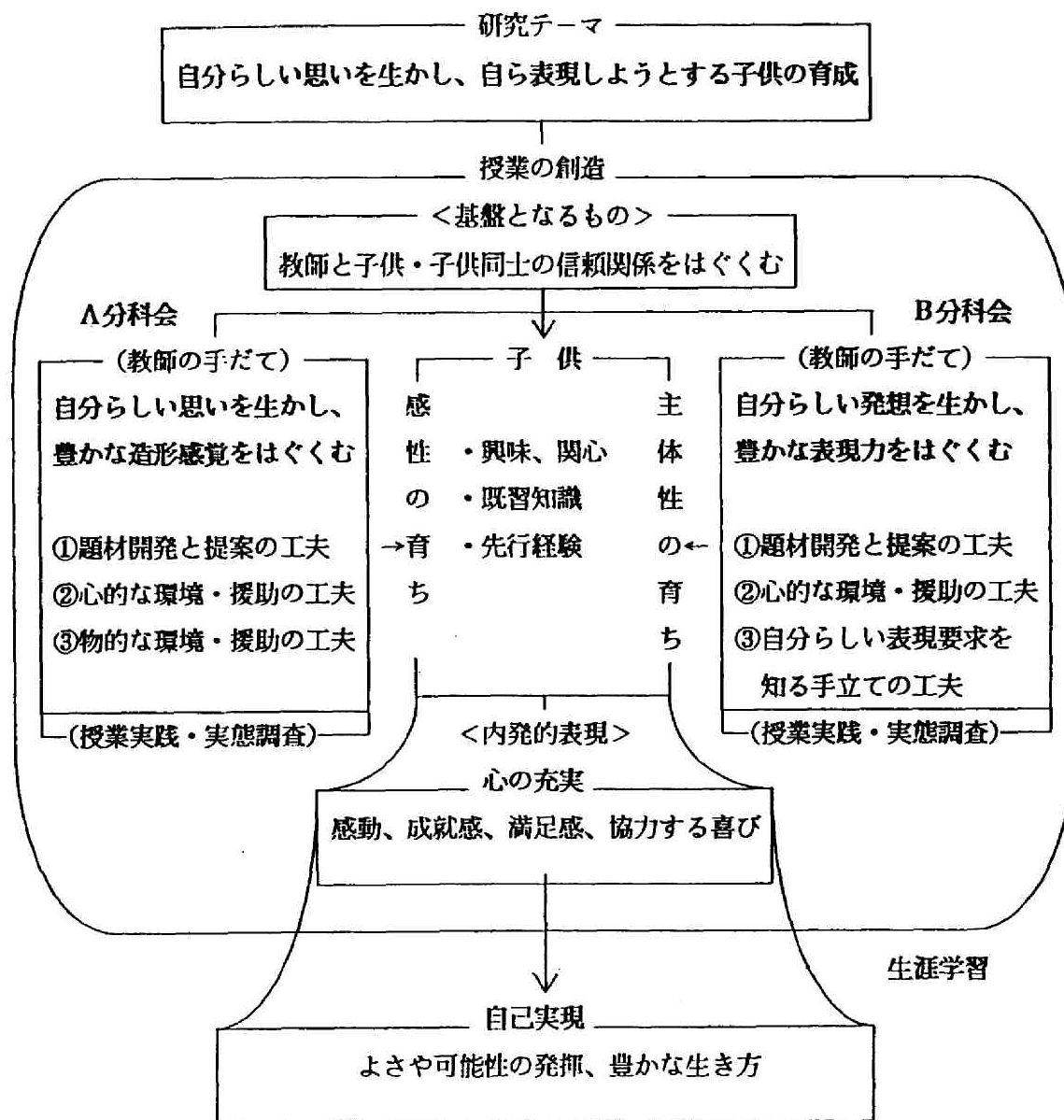
また、子供が願いや夢の実現へと自らの力を十分に発揮し、意欲的に表現できるためには、まず一人一人が自分のやっていることや発見したことに自信をもてるようにすることが大切である。その上で他者のよさにも気付き、お互いに響き合い、感じ合い、認め合える環境があれば更に触発され一人一人の思いも大きくはぐくまれる。そのような教師と子供、子供同士の信頼関係をはぐくむことは自己実現をめざす授業の重要な基盤になると考えた。

### 造形表現の めばえと成長



## II 研究の内容

### 1 研究全体構想図



### 2 研究の内容

子供の思いと主体的な表現は、共に働き掛け合いながら深化していく共生の関係にある。すなわち、共に呼応しながら作品として形象化され、思いも具現化される。そこで本研究を進めていくために「思いや感性から生まれる、造形感覚をはぐくむ」とこと、「自分らしい発想から生まれる、主体的な表現力をはぐくむ」という二つの内容を柱としてA・B二つの分科会を設定した。A・B両分科会は相互の関連を図り、研究課題の解決を目指した。

○ A分科会（自分らしい思いを生かし、豊かな造形感覚をはぐくむ指導法の工夫）

身の回りの木切れや小石などを並べたり、重ねたり繰り返し試しながら表現製作していく中で、子供はイメージをふくらませ想像の世界へ没入していく。冒険旅行に出発する夢を描きながらつくったり、つくっているものに愛らしさやいたわりの気持ちを表したりする。このように楽しみながら表現する中でふくらんでくる夢や憧れに満ちた心情を「思い」と呼びたい。一方、不安や怒り、悲しみといった心情も製作の動機となることがある。これらの心情は、願望む姿と現実との違い等によって生まれる。教師は、これら全ての子供の思いをあるがままに受け止め、「より自分らしくありたい」という子供の内発的な要求に寄り添い、援助の方向を探る必要がある。また、子供には、それぞれ自分の好きな形や色、表し方がある。気にいった形になるよう、何度もこだわり描いたり、響き合いを味わいながら彩色したりする。このような製作を夢中になって行うことで、満足感や喜びを味わう。一人一人のこのような造形感覚は、思いと同様に、子供の成長の過程で芽生え育ってきたものであり、各々の子供の成長の歴史であり、他の物と置き換えられない貴いものである。

以上のような視点から、A分科会では子供の思いを生かし、造形感覚をはぐくむ指導の具体的な手だてを探ることを研究の中心とした。

○ B分科会（自分らしい発想を生かし、豊かな表現力をはぐくむ指導法の工夫）

自分らしさに自信をもち、自分なりに感じたことや考え、思いつきから主体的に製作するとき、それぞれの子供は、豊かに「自分のよさや可能性」を発揮することができる。それは、新たな自分への自信、生きる喜びや力へとつながっていく。

子供は、内から発するイメージや思いから、材料を選択したり、選択しながら表現の内容などを考えたり、新たなひらめきを得て、つくり方や表し方を様々に工夫していく。また、そこから更に新しい思いや発想がつくりだされるのである。このような子供の創造的な表現に対し、子供の意思とは無関係に技法やテーマが教師から一方的に与えられるのであれば、子供は自分らしさを発見できず意欲も失われる。そこで、主体的な子供の表現をはぐくむために、子供の内発的な表現の動機や意欲、構想を大切に、子供中心の授業をつくり出すことが必要となってくる。しかし、今日の情報過多等の社会状況の中で、自分らしさ、自分なりの思い、自分の表現活動のよさに気づかずに悩む子供もいる。主体的な造形活動を推進していくにはそのような子供への援助を欠かすことはできない。

以上のような視点から、B分科会では、子供の主体的な活動を中心に据え、その子らしい発想を生かし、豊かな表現力をはぐくむ指導の具体的手だてを追究することを研究の中心とした。

### Ⅲ 分科会の取り組み

#### 1 A分科会 **自分らしい思いを生かし、豊かな造形感覚をはぐくむ指導の工夫**

##### (1) 具体的手だて

造形的な思考力や判断力にとってかせない直観的に働く能力である造形感覚は、自分らしい思いをふくらませる力とともに働くことによって、創造活動の基礎的能力となる。子供が自分らしい思い・感覚に自信をもち、主体的に活動していくための手だてとして次の3本の柱を考えた。

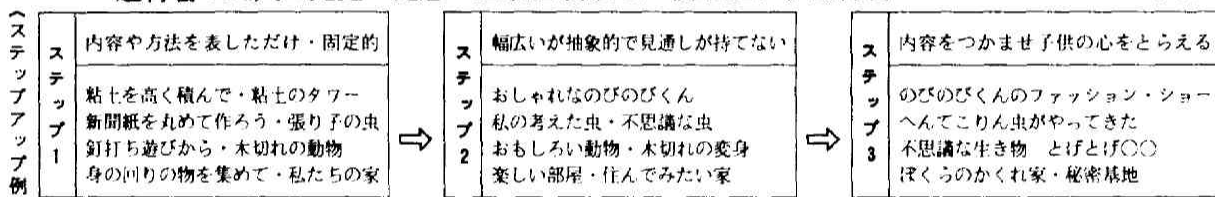
##### ① 題材の開発と提案の工夫

###### ア 魅力ある題材の開発

- ・全身の感覚を活動させ、感動的体験・季節感等を味わわせるものの工夫
- ・材料の選択、組み合わせの工夫（多様な素材・未知のものとの出会いの場の設定等）

###### イ 子供の思いを広げ、造形感覚を活性化させる提案の工夫

- ・題材名の工夫（児童の発想・意欲を喚起し、個を生かす題材名へのステップアップ考察）



- ・導入における働きかけ、表現以前の活動の工夫（戸外へ出る・全身的活動・素材体験等）
- ・子供に見通しをもたせ、製作への自信をもたせる資料提示（効果的な作例・機器の活用）

##### ② 心的な環境・援助の工夫

- ###### ア 発問、助言、評価（座席表等によるチェック、夢カード・発明カード等製作表での交流）
- ・指示的語調を排除し、子供自身に考えさせ、主体的製作意欲をもたせる言葉かけの工夫
  - ・子供を認め励ます言葉かけの工夫
  - ・表現の多様性に気付かせていく言葉かけの工夫

###### イ 子供の相互作用の場の工夫（作品発表会・鑑賞会・伝言ボード・アイディアプレゼント）

###### ウ 子供の思いを知る手だての工夫（こまったさんカード・夢の募金箱・作品コマーシャル）

##### ③ 物的な環境・援助の工夫

###### ア 学習の場、学習形態の工夫（ヒントコーナー・テクニックコーナー・作業コーナー等）

- ・個々の選択、製作過程に対応できる場
- ・教室の枠を越えた体験的活動の場

###### イ 物理的援助の工夫（材料コーナー・資料コーナー・道具コーナー・機器コーナー等）

- ・豊富、多様な材料、参考資料、用具等を準備し、できるだけ自由に使えるようにする。

###### ウ 環境構成の工夫（ミニギャラリー・こんなもの見つけたよコーナー・校庭の動植物等）

- ・造形感覚を刺激し、創造性を高める日常的な環境構成を校内、校外において工夫する。



(2) 具体的な題材と主題にせまる指導の手だて

題材名 (学年) 内容	① 題材の開発と提案の工夫	② 心的な環境・援助の工夫	③ 物的な環境・援助の工夫
春をさがしに行こう (2年) 春の公園を散歩し、全身で感じた雰囲気から生まれたそれぞれの思いを絵に表す。	・戸外の空気の匂い・きらめき・植物の息吹等を全身で感じ取らせる。 ・セロファンに絵の具でかきクレヨンをはかした台紙と重ね合わせる効果をねらった新鮮な技法の導入。	・イメージの広がる発問の工夫 「春の空気はどんな感じ？」 「春の校庭にはどんな動物がいたら楽しいかな。」 「春にはどんなことがわかる？」	・春を豊かに感じ取ることでできる日常的な校庭環境設定や近隣におけるそれにふさわしい場所の選定 ・セロファンを使った効果、クレヨンのぼかしの効果を示す作例準備
のびのびくんのファッションショー (2年) 粘土を高く積み上げた形から発想して、身の回りの物で飾りながらつくる。	・具体的な形を目指す以前に粘土を思いのままに積み上げていく活動で粘土の感触を楽しみ思いを広げる。 ・自分の見つけた物との組み合わせを試行錯誤しながら考える。	・発問「粘土で高いタワーをつくらうね。」 「何に見えてきたかな？」 「ファッションショーだよ、素敵なおしゃれをしよう。」	・好きなだけ使える粘土の用意 ・いろいろな材料をストックした材料コーナー (木の葉・枝・木の実・紙類・布類等)
虫 虫 ムッシン (3年) 丸めた新聞紙を芯にしてゆかいな楽しい虫を想像してつくる。	・新聞紙を丸めたり筒状にしたりする活動を楽しみながら、途中で現れる形に触発され、既成のものにはない思い思いの虫の形をつくっていく。 ・飾りに使う材料を主体的に選ぶ。	・つくる虫のイメージ化のための発問「その虫、何が好き？」 「食べる物は？」「することは？」 ・つくる虫紹介カードを作成し展示した後、図鑑のようにまとめる。	・材料コーナーの設置 ・みんなの集めてきた材料紹介 ・資料コーナーの設置 構想 → 図鑑、絵本、参考作品 製作 → 張り子張りの見本各種
音楽が形と色に変わったよ (3年) 音楽を聴いて抱いたイメージを、絵の具を使って自由に表現する。	・ゆったりした呼吸、ぼんやりした時間、体を横たえ瞑想的な曲を聞くことにより、心を解き放し、自由なイメージを浮かび上がらせる。 ・形にとらわれず描く楽しさの経験。	・具体的な形を描くことにこだわらないような示唆を行う。 「目をつぶってじっと聴いてごらん。何かが見えてきて、描きたくなったらかけばいいよ。」	・形と色のイメージが浮かびやすい音楽の用意 (BGM的なもの、邦楽曲、宗次郎などの現代音楽など) ・絨毯などを敷いた床。雑音が入らず、音楽に集中できる空間の設定。
〇〇から来た友達 (3年) 夏休みに出かけたところからやって来たという設定をして、そこで集めた自然材をもとに思いを広げてつくる。	・つなぎ材として使う石膏と出合わせ、石膏で楽しく遊ぶ。 ・夏休みの思い出を掘り起こし、日常では得られない感動的体験に根ざした表現を引き出す。	・発問「夏休みに採集して来たものからどんな友達が生まれそうかな。」 「何という名前の友達なの？」 ・石膏に浸した布の扱い方について実演し、理解を深めさせる。	・石膏で遊ぶコーナー ・材料コーナー (竹の皮、木材など持ち寄りの材料と組み合わせる物) ・技術コーナー (選択した材料等の組み立てに必要な道具・技法紹介)
不思議な生き物 — とげとげ〇〇 (4年) 木切れにたくさん釘を打ちイメージを広げて、他の材料を合わせ新種の動物にする。	・自然材の形のおもしろさから発想豊かにイメージを広げる。 ・最初に釘打ち遊びを楽しむことにより、素材の特性を十分に味わい造形感覚を活性化させる題材。	・素材と深く関わりながら広げたイメージを生き物の名前を決めることによってつくるものを明確にする。 — 例 (トゲトゲカドカ、チョコチョコ、ノソソ、とろり)	・技術コーナー (イメージ通りに組み立てられるよう各種技法の提示) ・材料コーナー (針金、小枝、木片布、紙類、段ボール、トイレットペーパーの芯など多様な素材の用意)
不思議な記念碑 (4年) 自由に切った段ボールを記念碑のミニチュアをつくる意図で組み立て、それを眺める自分をつくり完成させる。	・偶然にできた形からイメージを広げることにより、直観的な造形感覚を生かす。 ・素早く加工できる段ボールを使い思いを容易に表現し楽しめる題材。	・発問「ある日、あるところに不思議な記念碑が建っていた。太古の人類の遺跡か、あるいは宇宙人の残したものでしょうか？」 「記念碑ができたら眺めている自分をつくらう。」	・各種段ボール紙の用意 ・小さな接着面でも付きやすいホットメルトの用意 (ホットメルトを使って組み立てて見せる。) ・参考作品の展示
おもしろマシン発明! ? (4年) 機械的な物の形を想像し、廃材を利用して、平面・半立体・立体などで表す。	・触れたことのない機械の内部を覗くことによる未知の物との出会い。 ・廃棄機械を分解して素材を得る。 ・おもしろい機械の映像を見せ、興味・意欲を高める。	・発問「もし夢がかなうなら、どんなことをする機械をつくりたい？」 ・発明カードを活用して、援助のポイントを把握する。 ・「作品マシナリ」をつけて展示する。	・図工便り等で不用機械収集の活動 ・材料コーナー (金属類の廃材等) ・資料コーナー (写真、図鑑ビデオテープ等) ・組立コーナー (特殊工具等)
水のきらめきにつつまれて— 光と闇の不思議な世界 (5年) ペットボトル、透明チューブ、竹などで水路を作り、色水の流れる空間を構成する。	・プール内の設備を利用して、流れる水を使うこと、ブラックライトに照らされた蛍光カラーとの感動的出会い等の新鮮な体験の提案。 ・竹、透明容器での素材・技法体験。	・「夢カード」— 製作の構想等がかかれたものの活用により、児童の思いをくみ取る。 ・「こんなもの見つけたよ」コーナーで多様な発想や工夫を紹介する。	・日常と違う空間演出— 暗幕、よしず等で作られた路を通ることで別の世界へ来たという意義をもたせる。 ・グループの案に応じた製作場所 ・用具、材料コーナーの設置
ぼくらのかくれ家・秘密基地 (5年) 紙バック、空き缶等を建築資材に見立て、中にこもって楽しめる部屋を共同でつくる。	・同一サイズのものをたくさん集めて組み立てて作るブロック積みのおもしろさ、身近な物の意外な強度。 ・ミニサイズではあるが、実際に入って夢を具現化する喜び。	・つくりたい部屋の希望ごとにグループ化し、互いのよさを認めあって共同製作ができるよう支援する。 ・モデルルーム展示場とし、各部屋を回って遊ぶ。	・材料収集の全校呼びかけ ・材料コーナーの設置 ・おもしろい建築物の資料 ・技術コーナーの設置 (丈夫な組立発見コーナー)

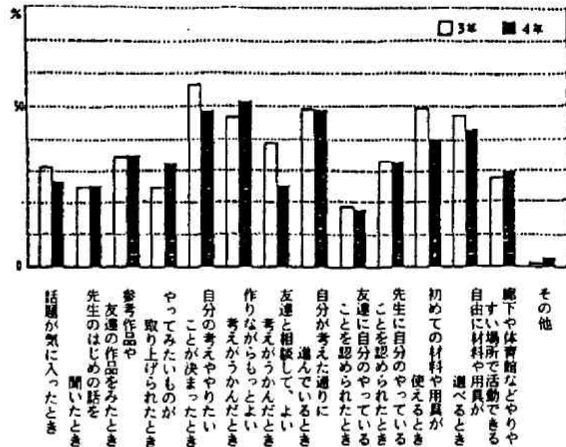
(3) 実態調査について

研究を進めるに当たり、子供たちがどのような気持ちの変化をたどりながら活動しているのかを探りたいと考え質問紙法による調査を行った。(調査対象児童：都内8校、3・4年680人)

3つの質問を設定し複数回答を認めて得られた結果から、次のようなことがわかった。

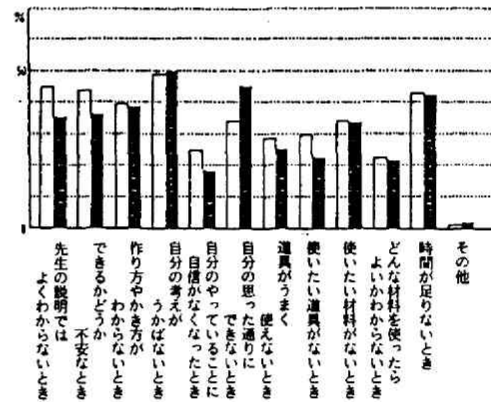
<質問Ⅰ> 作品をつくっていく中で、やる気がおこるのはどんな時ですか？

子供の気持ちがプラスの方向に働く時(より意欲的な活動が認められる時)は、自分の考えややりたいことがはっきりと見えたり、思い通りに進む、もっとよい考えが浮かぶなど、自分の思いを大切にしている。さらに、初めての材料や用具との出会い、自由に選べることに大きな期待をもっている。



<質問Ⅱ> 作品をつくっていく中で、困ったり悩んだりしたのはどんな時ですか？

質問Ⅰとは逆に子供の気持ちがマイナスの方向に働く時(活動が停滞し意欲が失せてしまう時)は、自分の考えがまとまらない、思った通りに活動できないなど、自信がもてず自分の意図するものとの隔たりを感じている。さらに、先生の話ではよくわからない、方法が理解できないなど、教師の働きかけの問題点も見えてくる。



<質問Ⅲ> IIで答えたことを、どうやって解決しましたか？

子供が自分の考えで迷っている時、友達と相談する、友達の作品や参考作品、資料、教科書等を見て考えるなど、自主的に自力解決をしようとする姿がある。材料・用具に関する困難においても同様で、別のやり方を試したり色々な材料で工夫してみる、友達に分けてもらう、自分でさがすという方向が示されている。

以上の結果から、より魅力ある題材の開発・子供相互の関わり合い・教師の援助のあり方など考えなければならないことがわかる。また、子供の思いを成就させるためには物理的環境を整える必要性も高い。

## 2 B分科会 自分らしい発想を生かし、豊かな表現力をはぐくむ指導法の工夫

### (1) 具体的手だて

B分科会では、子供の主体的な活動を中心に据え、一人一人の発想を生かした表現に結びつけるために、次の3つの方策を考えた。

#### ①題材の開発と提案の工夫

自分らしさを生かせる題材とは、それぞれの感性や主体性の育ちに応じて、内容や方法が柔軟であり、子供たちが自らの発想に応じて多様な表現方法を選択することのできるもの。

柔軟性がある題材であるためには	多面的表現方法でせまることができるには
<ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名の工夫（具体的イメージを想起しやすい、発想がしやすい、構想がたてやすい）</li> <li>・多様な操作が可能な素材の用意</li> <li>・意欲の高揚や成就感がもてる題材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素材のもつ特質を生かせる題材</li> <li>・三次元的な構想がたてられる題材</li> <li>・授業形態の工夫（個別指導重視、TPO、自己有能感が味わえる）</li> <li>・評価の工夫（評価が活動に生かせるもの）</li> </ul>

#### ②心的環境・援助の工夫

B分科会では、特に対話による評価を重点に研究をした。

##### ア 対話による評価の生かし方

- ・その場その場で潜在的な感性との結び付きを見つけ、表現の変容に生かすことができる。
- ・適時、よさを認め励ますことにより、製作過程での意欲を持続させることができる。
- ・対話の中から、自分らしさや、次に向けての表現の課題をつかむために、表現のよさに気づかせる。
- ・自己認識をしたり、他者の特質に関心をもたせたりするために、自他の作品を見る場をつくる。
- ・互いの作品を自由に鑑賞する場を設定し、相互に作品のよさ等を話し合うことによって、他者への関心をもたせ自分の表現に生かすきっかけとする。
- ・個々の子供の言葉を通して、即時的に児童理解を深め助言の内容を工夫する。
- ・その場その場での、表現のつまずきに対応して支援を行うことで、子供の表現活動を活発化させる。

##### イ 課題と留意点

- ・消極的な児童に対しては、表現意欲を喚起する助言を工夫する必要がある。

- ・その子に応じた言葉かけが必要である。
- ・子供の思いを妨げないために、子供の活動を見守る姿勢の確立が必要である。
- ・平素、教師と子供、又は子供同士の信頼関係を築くよう努める。

### ③自分らしい表現を知る手だて

#### ア 個々の表現欲求とその手段の理解

表現欲求を認識するたるに	表現手段の発見や選択をするために
<ul style="list-style-type: none"> <li>・思ったことを具体化するための課題に気づかせる。</li> <li>・好きな技術技法に気づかせる。</li> <li>・製作過程で造形的な興味関心に気づかせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定化した表現から解放し、自由に発想できる場を設定する。</li> <li>・経験してきた表現方法、技法などを呼び起こす。</li> <li>・様々な素材、材料の準備により、多様な表現方法を選択できるようにする。</li> </ul>

#### イ 自分らしい発想を生かせる表現をするための条件設定

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の表現を認め合う環境</li> <li>・発想を具現化していくための教師の支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な材料とのかかわりや素材との触れ合いの経験</li> <li>・題材と十分にかかわることによる成就感の積み重ね</li> </ul>
--	--

#### ウ 児童の実態調査結果の活用

表現に結びつけるまでの手だて	評価に結びつけるまでの手だて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・低、中、高学年における表現欲求の傾向を把握し、題材に生かす。</li> <li>・個々が必要とする材料や用具の把握をし、題材に生かす。</li> <li>・製作後の関心意欲はどうだったかを、題材に生かす。</li> <li>・やりたいことや関心のあることを調べて、題材に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行経験と欲求の関係を、個別評価に生かす。</li> <li>・子供の特性を知り、対話での評価に生かす。</li> </ul>

### (2) 具体的な題材と主題にせまる指導の手だて

#### ① 低学年での取り組み

題材名	豊かな表現力をはぐくむ手だて
ひもでどんなことができるかな	自由にひもで遊び、でき上がったものから発想や構想をして、線、面、立体にとらわれず、自由な表現を引き出すための学習の場を設定する。

児 童	材料から受けた初発の構想	感想・新しい構想
○ ○ ○	・どこまでも、のばしてみたい。	・学校を、ひもで巻いてみたい。 ・おくじょうのかなあみを、ゆわいて みたい。
△ △ △	・ぐるぐる巻きにしてみたい。	・おうち、つくってみたい。 ・てつぼう、まいてみたい。

## ②高学年での取り組み

題 材 名	豊かな表現を育む手立て
こんな世界があったらいいな	イメージした世界を、素焼した器（地）の中に、自然材を生かして、身近材を工夫しながらつくりあげていく。

### 感想カード例

○題材名『こんな世界があったらいいな』

①できあがった作品について考えてみよう。（あてはまるものに○と考えを書く）

○思っていた以上にうまくできたところ（草を入れることができた・飾りを多くできた）

○自分で気に入っているところ（カップの中に、ビー玉を入れている）

○少し失敗したところ（山の形）

・気に入らないところ（）

②今回の作品をつかったことを生かして、今度はどんなことをしてみたいか考えてみよう。

○やってみたい題材 『自由工作』

○生かしてみたい技法や材料（）

③友達のつくっているところや、できあがりを見て感じたことをかいてみよう。

いろいろな形やようす（いろいろな工夫ができています）

## IV 実践事例

題材名「テープをなかまに、ぼうけんのたびへ」

2 学年（B分科会）

### 1 題材設定の理由

子供たちの発想は、どのような条件で豊かな広がりを見せるのであろうか。そして、その発想を造形的に表現するとき、どのような思いが生まれ、変容を重ねていくのだろうか。個性を重視し、豊かな表現力を育成することを求められる今日、図画工作科の授業に必要なことは、子供たちに対する素材や活動の提案であることにとどまらず、その子らしいイメージを引き出すきっかけとなるようにすることである。また、イメージを表現するための構想や表現内容や方法を幅広く許容できる題材名の工夫が重要であると考え。このことは、できるだけ表現内容の枠を外し、子供の発想と表現欲求に対応できる言葉かけや教室環境の設定などに、柔軟な教師側の援助が求められているといえよう。

今回の研究授業では、低学年の子供たちに、自分の思いと表現欲求を生かす手立ての一つとして、平面・立体にこだわらないで、自由な空間に自分らしい表現を見つけ出すことを目標とした指導を行うことをねらいにしている。

そこで、実践1（4時間扱い）では、材料に触れて自分の思いで発想を広げ造形活動することをねらいとした題材名「どんなことができるかな？長いテープを使って」を行った。また、実践2（4時間扱い）では、画用紙に穴を空けたり、思いのままにつなげたり、画用紙の色や材質を自由に選んだりすることを通して、表したい世界のイメージや空間のイメージを徐々に捕えていくことと、でき上がった作品の鑑賞を通してそれぞれのよさに気づくことをねらいとした題材名「のぞいたあなは、ぼうけんの世界！つないで・ひろげて」を先行経験として行った。その結果、児童の表現欲求に応え、更に児童の発想と表現欲求を実現するために本題材を設定した。

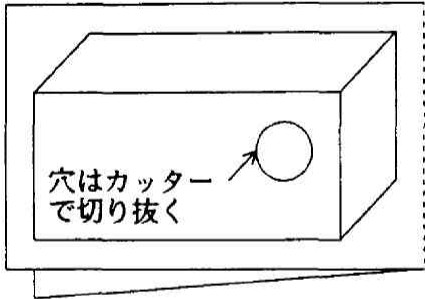
### 2 題材のねらい

- ・グループで冒険の世界の入り口をつくることを通して、表現したい世界のイメージをふくらませる。
- ・材料をもとにそれぞれの発想を生かし、造形的な基礎技能を育てる。
- ・出来上がったお互いの世界の中で遊び、それぞれのよさを味わう。

- 3 準備 教師 荷作り用平テープ、紙テープ、P・Pテープ、紙パイプ、体育用具、絵の具、スチレンボード、サインペン、ダンボール箱、カッター、カッター板
- 児童 はさみ、セロハンテープ、身近材。

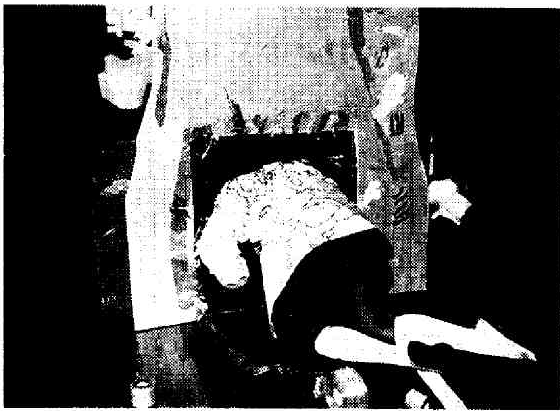
4 学習の流れ (6時間扱い)

A豊かな造形感覚をはぐくむ手だて B豊かな表現力をはぐくむ手だて

	児 童 の 活 動	主 題 に 迫 る 手 立 て
イ メ 1 ジ ↑ ↓ 表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出かけてみたい冒険の世界をイメージする。 「あなの中をのぞいてごらん、どんな世界が見えるかな？」</li> <li>・ワークシートの次のページに絵にかきながら、思いを膨らませます。</li> <li>・つくりたい世界をグループで話し合い、入り口をつくる。</li> <li>・入り口の場所をグループで決め、入り口を抜けたり、冒険の世界に住む生き物をイメージしたりすることを通して、表現したい世界を発想する。</li> <li>・グループで、材料をもとに表現したい世界を話し合い、確認し合う。</li> </ul>	<p>B 自由なイメージが広がるようにワークシートを与える。</p>  <p>AB 発想を引き出す言葉かけ 「入り口を抜けるとそこは冒険の世界どんな世界が広がっているのかな？」</p> <p>B 用意した材料、用具などを紹介し、意欲を高める。</p> <p>AB 各グループとの対話により、子供たちの思いを引き出し、表現に結びつく援助をする。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの思いに合った材料を選び、まわりの環境を生かして結んだりつなげたりして、つくりたい世界をつくっていく。</li> <li>・出来上がったお互いの世界の中で遊び、それぞれのよさを味わう。</li> <li>・次回、続けたいことや、思いついたこと、またやりたいこと等を発表する。</li> </ul>	<p>B 表現に必要な技法や、素材の生かし方を対話による評価を通して気付かせ、表現が広がり深まるようにする。</p> <p>AB 他のグループの活動に興味をもたせ、相互関係を高めるとともにそれぞれの表現にいかせるように助言する。</p> <p>B 各グループとの対話を通して、今回の学習の中から子供たちの思いを汲み取り、次回の題材に生かしていく。</p>
現 ↑ ↓ ま と め		

## 5 考察

今回の実践1・2を踏まえた本題材の学習において、子供たちは材料をもとに平面・立体にこだわらない自由な空間に、様々な表現の変容を見せてくれた。このことは紐材を使った活動において、「テープをどこまでものばしていきたい。」などの衝動的な行為の喜びから、鉄棒や金網にテープをつなげていくことを経て、「おうちにしてみたい。」「かいじゅうのすみかをつくる。」などの具体的イメージが広がり、子供たち自身の意志で課題をつかむことができたことが理由の一つとしてあげられる。そして、具体的な表現の欲求が子供たちの活動を通して自然な形で発生したことも二つめの理由としてあげられよう。また、対話を通して子供の思いを掘り起こす手立てでは、「紐と一緒に出発！冒険の旅の行き先はどこかな？」の問いかけに、「くものおうち」から「蜘蛛の巣の世界」や、「電線」から「雲の上」そして「鳥の世界」などへ思いが膨らみ、よりダイナミックな空間へと広がりを見せることができた。このような主体的な活動につながった理由としては、グループ編成を工夫したこと（学級担任との連携が不可欠である）と、つくりたい世界に対する子供たち一人一人の思いが、入り口を作る先行経験によって強く引き出されていた結果と言えよう。



海の世界の入り口は、銀色の大きな岩です。



鳥のおうちの入り口はフラフープ、  
「鍵を付けて魔女は入れなくするの」



中央は、鳥の巣の入り口と、夕焼け空。  
手前は、蜘蛛の巣の世界が広がってきたところ。



### 1 題材設定の理由

中学年では、自分らしい表現をすることに大きな喜びを感じるようになってくる。また、他者を意識する気持ちが強くなり、人間関係に広がりが見られるようになる時期でもある。本題材では、子供の「不思議な出会い」への期待や願望を形として表現することをねらいとした。

素材とした発泡スチロールは、日常生活の中で多用されており、手に入りやすい材料である。切断する、折り取る、穴を開けるなどの加工が容易であり、接着も楽である。発泡スチロールを組み合わせ、付け加えて行くことで、イメージをふくらませ、子供一人一人の造形感覚を生かし、願望や夢を形として表現し、楽しむことができると考えた。また、既製の水彩絵の具と併用して、低学年での色遊びの経験や日常生活の中で、食べたり、使ったりしているものから色を探しだし、自分の絵の具をつくることで色彩についての興味、関心を刺激し、豊かな色彩感覚をはぐくめると考えた。

### 2 題材のねらい

- ・素材の特性を生かして、想像力を働かせ思いをふくらませながら表現する。
- ・いろいろな角度から見ながら、大きさやつり合いを考えて、立体的な表現を工夫し、自分のイメージに近づける。
- ・絵の具づくりを様々に試す中で、発想を広げながら、製作する喜びを味わう。

### 3 準備

教師：スチロールカッター、電動糸のこ、千枚通し、針金、竹ひご、アラビア糊、  
 インクペラ、絵皿、予備のスチロール材料、参考資料  
 洗剤（つくった絵の具をスチロールに塗りやすくするために使用）

児童：スチロール材料、カッターナイフ、接着剤、絵の具、絵の具づくりの材料

#### 児童が集めた材料

花、野菜、果実、カレー粉、ジュース、インスタントコーヒー、  
 ケチャップ、ソース、醤油、土、粘土、チョーク

4 学習の流れ (10時間扱い)

A. 豊かな造形感覚をはぐくむ手だて B. 豊かな表現力をはぐくむ手だて

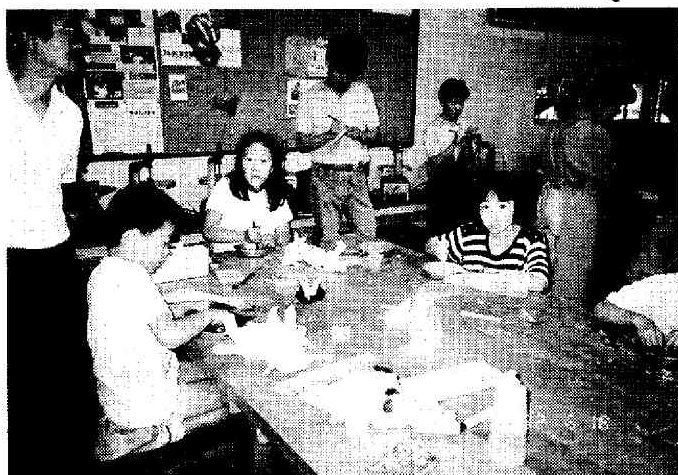
	児童の活動	主題に迫る手だて
構 想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチをする。</li> <li>「ふんわりした雲の上にいるんだよ」</li> </ul>	A・B 児童のイメージが広がるような題材名を提示し、話をする。
表 現 I (形 つ く り)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スチロールカッターで切る</li> <li>「すごい、なんで切れるのかな」</li> <li>・材料を組み合わせ、接着する</li> <li>「これを耳にしたら面白そうだな」</li> <li>「天井から下げると感じが出るね」</li> <li>「からだのところにもっとつけてみよう」</li> <li>「赤くしたら、かっこいいかな」</li> </ul>	AB スチロールカッターならではの表現方法を知らせる。 A 児童が使い方を工夫できるような素材を用意する。 A 製作過程の作品を随時展示し、児童がそれぞれのイメージを確かめられるようにする。
表 現 II (色 づ く り・ 色 ぬ り)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた材料で、絵の具づくりをする。</li> <li>「絵の具って、何が入っているんだろう」</li> </ul> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">材料 + 洗剤 + アラビア糊</div> <span style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">⇒</span> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">絵の具</div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ぼくの絵の具は、カレー味だよ。」</li> <li>「コーヒーの絵の具は、いいにおい〜」</li> <li>・形に合わせて、彩色する</li> <li>「服の色はお花の絵の具にしようかな？」</li> <li>「ちょっと、ちがうかな、付け足そう〜」</li> <li>「できた〜、つるしてみよう」</li> </ul>	AB 児童の表現が深まるよう、色々な絵の具づくりの材料の使い方を提示していく。 A 児童の意欲を高め、イメージがふくらむような言葉かけをする。
鑑 賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所を考え、飾り付ける</li> <li>「どこに、かざろうかな？」</li> <li>「ぼくは校庭のイチョウの木にしよう」</li> <li>・感想を話し合う</li> <li>「君のは、宇宙船みたいで、すごいな！」</li> </ul>	A 児童それぞれが、イメージに合った場所を考え、展示できるよう支援する。

## 5 考 察

子供にとって、発泡スチロールは低学年から使ってきた素材であるが、自分のイメージに合わせて、スチロールカッターで切ることに、魅力を感じていた。なめらかな切断面と曲線で作られる形を組み合わせていた子供が多かったが、抵抗感の無いスチロールカッターより、カッターナイフで切ることを楽しんでいる子供もいた。イメージに合わせて、子供は様々な形の組み合わせ方を試み、自分なりの工夫をしていた。

また、絵の具づくりという未知の製作方法との出会いから、色をつくり出す中で大きな喜びを感じる事ができ、新たな発想の展開へとつながった。

また、製作過程の作品を展示し、それぞれが自分の作品と対話しながら、随時イメージを確かめられるようにした。これにより、自分の作品に愛着をもち、思いを形としてふくらませていくことができた。さらに、友だちとの表現の違いに気付いていたという声も聞かれた。



私は お花のしるを

たくさん 集めました

チョークをつぶすのは

けっこう

つかれるわ!

ぼくの絵の具は

カレー味だよ

ぼくの お客さま

おりにきて~

先生はすてきな

おみやげを

持ってきて

ほしいな!



## 題材名「南の国からのおくりもの、形に変身！かざりに変身！」

第4学年（A分科会）

### 1 題材設定の理由

日本では、古来から藤づるを利用して、籠を編んだり、武器類の柄巻き、布に織るなど様々な重用されてきた。しかし、現在ではその利用価値も減少し、入手も困難である。そこで、同じつる性の植物「籐」を子供たちと出合わせ、造形活動に生かしてみたいと考えた。

子供たちは、新しいものに実に敏感に反応する。籐という目新しい素材は、“植物なのに（刈り取ってあるのに、乾燥しているのに…）柔らかい”という点でまず興味をひくであろうと思われる。そこで、その柔軟性を利用して遊ぶ中で様々な形が見いだせることに気付かせ、「もの」へ作りかえていく過程を楽しませたい。

籐は、まとめて束ねる・ねじる・編むなど手を加えるとかなり強さを増すが、1本では意外なほどのしなやかさがある。量が増えるほど形の固定や接着等で、多少の困難もあるが、子供自身の発想で工夫し表現させていきたい。さらに、それぞれが作りだした形をよりアピールするために、子供たちの身の回りから、付け加える材料を集めさせ、組み合わせを工夫した飾り物へと発展させたい。これらの活動を通して、子供たちが様々なものを素材としてとらえられるようになると考え本題材を決定した。

### 2 題材のねらい

- ・積極的に材料と関わり、思いついた造形遊びを楽しむことができる。
- ・籐のもつ性質を利用し、束ねたり、丸めたりして新しい形をつくることができる。
- ・身近なところから素材となるものを集めたり、自分なりの工夫や試みを通じて、豊かな発想をふくらませる。

### 3 準備

教師：籐、ラフィヤ、針金、糸、接着剤、接着テープ、はさみ、ペンチ、その他の  
身近にある材料

児童：各自が籐と組み合わせるために見つけた物

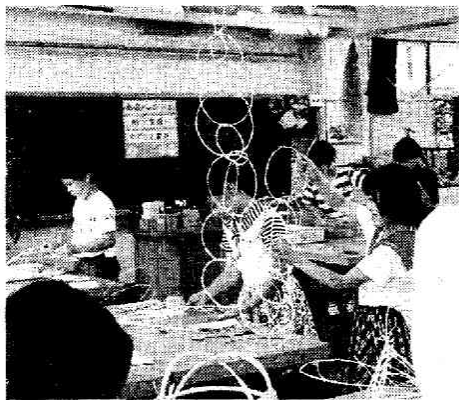
（リボン、毛糸、布、ビーズ、ボタン、木の葉、木など）



5 考察

子供にとって新しい素材との出会いは大変新鮮で興味深いものである。従ってそのものと十分に関わらせることにより、子供の興味・意欲はより高められイメージも大きく広げられることがわかった。子供はまず藤を身にまとい自分の体を装飾するところから出発し、始めは具象的な形を追求していたが、やがて様々な形へと変えられることを発見していった。そこからひとつの気に入った形を連続させたり、新しい形を接続させることにより一人一人が異なる自分だけの形を追求する姿がみられた。

しかし、次の段階では自然材と組み合わせに何が適するののかという課題が残された。接着場面では始め手軽な針金や接着テープを使っていたが、次第にラフィヤ（乾燥させた草）へと変わっていった。これは結ぶというめんどろな作業を通してでも融合する感じを大切にしたいためであると思われる。しかし、子供の身近にある材料は人工物が多く、素材を生かすことよりもそれらを扱う楽しさに走りがちである。そこで、互いに生かすような素材に対する感覚を育てていかなければならないと感じた。



学習の段階ごとに  
児童の思いを記録  
したカード →

こんなに長く  
なっちゃったよ!

きれいな色の  
テープも一緒に  
ピンにさしてみよう



NO.1 <藤に装身> (OO OO)  
藤の体に木につけるよふに。かいて  
前の国だから最初ははからちかひ  
ははこんなのさめたから木も  
いははイトウかほしいなふしぎ  
たす  
たす

NO.2 <竹とラフィヤ> (OO OO)  
はにかふに。していてつくりか  
いがあつた。  
お花の形。ラフィヤ  
リボ。自分でもさにいりた

NO.3 <竹に装身> (OO OO)  
たすの所があつたかに。なつて  
はははかたは。すすしのよう  
のもつてます。自分で。せん  
ぶして。もすてき。  
たす

NO.4 <テープに装身> (OO OO)  
ここにテープをつけて、  
ラフィヤやすすんおたは  
花にさすつもり。  
どうやってピンをさすの?

NO.5 <草> (OO OO)  
これはラフィヤという花で  
す。くろうした所はテープを  
つけてた所です。テープを  
つけてたかともおそくて  
とっても大人げました。おま  
いのができてうれいです。

## 題材名『こんな世界があったらいいな』

第5学年（B分科会）

### 1 題材設定の理由

題材名を見ると、発想の広がり期待させる言葉であるが、高学年の子供にとってはこの主題を絵に表すことに抵抗感をおぼえることが多い。その背景には、高学年としての発達の段階から、より具体的で現実的な本物らしい表現への欲求への表れがあると思われる。

イメージは浮かんでも、思ったように形に表せない、前後の関係や遠近の構想が立たない、本物らしい感じや、表したい雰囲気が出ないなどから、発想が消極的になったり、自信をもって表現を進められないという子供も多くいる。

今回の研究主題とB分科会テーマを受けて、子供たちの表現を主体的なものに近づけていくために、本題材はイメージした世界を平面に閉じ込めず、立体の中で実際に作ってみることにした。可塑性のある陶芸用粘土を使い、先ずイメージした世界の『地』（器としての形を作る。その中に、自分が、「あったらいいな」と思う世界を、実際の自然の植物や木々、身近材、紙粘土などを選び、組み合わせ、加工したりしてイメージを広げていきながら、自分の思いを生かした世界をつくり上げるものである。

大きさに規制のある『地』の上に、子供たちがどんな思いを、素材を通して広げていくのか実態調査をもとにしながら子供一人一人の思いを教師が読みとり、支援していくことで研究主題、テーマに迫ることのできる題材を考え設定した。

### 2 題材のねらい

- ・題材名から自分のつくりたい世界への思いをもつ。
- ・粘土の扱いに慣れ、つくりたい世界の土台である『地』をつくる。
- ・イメージした世界を具体化するために、素材を選択したり、組み合わせたり、加工する。
- ・素材からイメージを広げていき、中の世界を自由にふくらませていく。
- ・自分らしい表現を大切にするとともに、友達の世界の面白さや工夫しているところなどを  
感じ取る。

### 3 準備

教師；粘土（一人2kg位）粘土ペラ・粘土板・粘土のべ棒・粘土用接着剤・枝・木切れ ・紙粘土・色の付いた砂・発泡スチロール・ビー玉・おはじき・蛍光塗料 児童；自然物（土・砂・石等）・身近材（魚の骨、卵の殻、ビー玉、おはじき等）
--

4 学習の流れ（8時間）

A — 豊かな造形感覚をはぐくむ手だて B — 豊かな表現力をはぐくむ手だて

	児 童 の 活 動	主 題 に 迫 る 手 だ て
イ メ ー ジ ↓ 表 現	<p>つくってみたい世界のイメージをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな『地』にするといいか。</li> <li>・中にどんなものを植えたり、立てたり、飾ったりするか</li> </ul> <p>自分で準備できる材料について考える</p>	<p>AB 題材名からの発想を楽しみ、意欲・関心をもたせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「こんな世界があつたらいいな」下線部に意識をもたせる。</p> </div> <p>AB 教師の用意している材料、素材、道具を示すことにより、作りたい世界の構想を立てやすくする。</p> <p>できるだけ多くの素材、材料を用意しておく</p>
	<p>粘土の厚みや、接着の方法を理解して製作する。</p> <p>（険しい山、湖、滝、ピラミッド、建物、塔等）</p>	<p>B 作りたい形や、考えていることを聞き、その子に応じた技法を示していく。</p> <p>AB ビー玉やおはじきなどガラス性のものが素焼きの段階で溶けることを示す（火の力による変化に気づかせ、発想をふくらませる）</p> <p>B 植物等は育てていくと生長し、広がっていくことを示し、自然物と人工物との対比や、素材の組み合わせによる意外な面白さなどを児童の作品の中から紹介していく。</p>
↓	<p>素焼きした『地』の中にいろいろな素材を使ったり、加工して中の世界を広げていく。</p> <p>友達の作品の面白いところを見て、自分の作品に取り入れたり、工夫しながら世界を広げていく。</p>	<p>B 他の作品の面白さに気づかせ、自分の世界に生かしていく。</p>
ま と め	<p>完成した作品を全員で鑑賞し、製作途中も含めて、感想カードに記入する。</p>	<p>B 児童の感想や、本題材をもとにして次に何をしたいかを知り、次題材に生かしていく。</p>

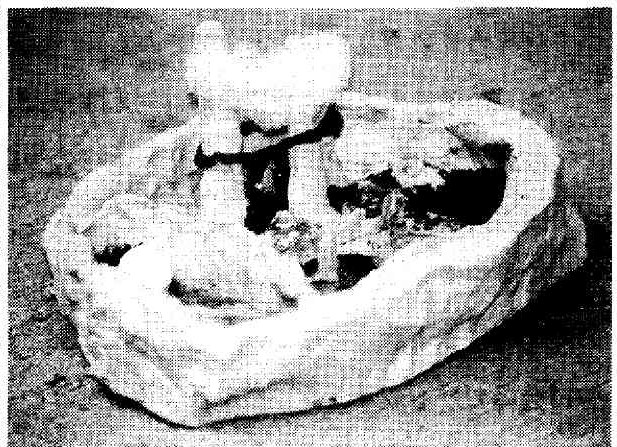
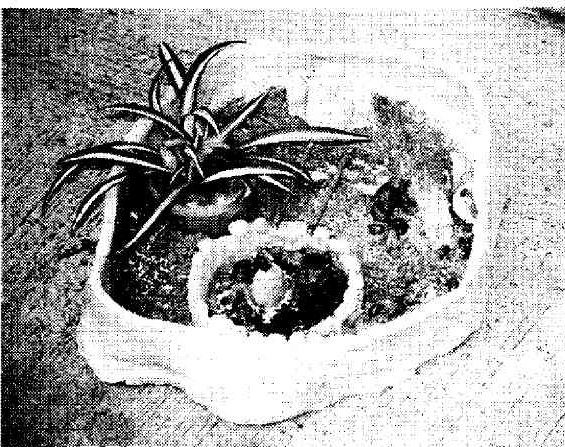
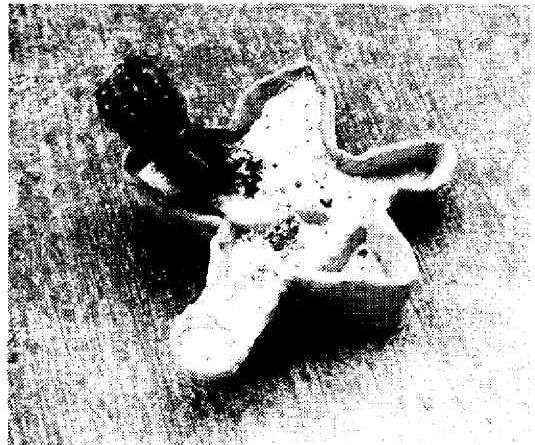
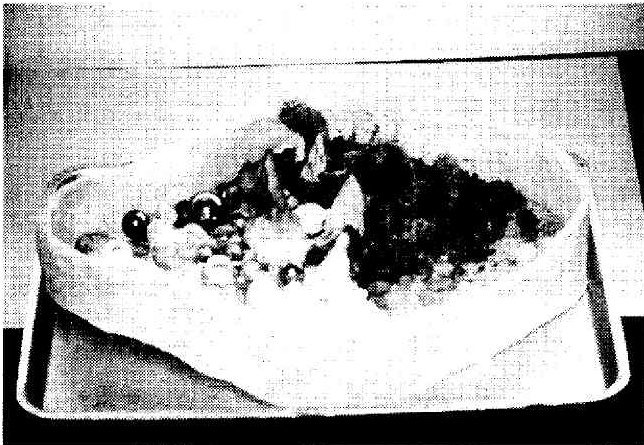


## 5 考察

いつもは、消極的な表現しかできない子供が、この題材では黙々と自分の世界に熱中していたり、イメージがわからないと悩んでいた子供も、土を入れ、一本の草を植えたり、ビー玉一個を山の上に置くことから様々な発想を広げていった。全て現実の物を実際に組み合わせることができるのが、表現を活発に主体的なものにしていけた要因だと考える。しかし一方では初めのイメージがはっきりしすぎていたため、固執しすぎて、発想の広がりがみられず単調な作品になった子供もいた。そこには、他の作品の気に入ったところを取り入れるという考えと、真似をするという葛藤があり、表現の自由さが奪われた面があった。

他の作品の気に入ったところをヒントにして自分の表現に生かしていくという意識を、子供同士の間は勿論のこと、教師の言葉かけの中により心掛けていかななくてはならないと痛感した。

※ (参考作品)



## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 A分科会における成果と課題

- 体験的な内容を重視した題材を設定したことは、新鮮な出会いや製作への期待を表す子供の喜びの表情を生み、意欲的な製作へと発展した。
- 子供の思いに寄り添い、共感するよう心的な環境、援助の工夫に努めたことにより、子供は自分の思いや造形感覚に自信をもち、自分のよさを認め、成就感、満足感を味わい造形活動することができた。
- 学習環境の整備を多角的にとらえ工夫したことにより、様々な周囲の事象から触発され、より豊かな創造力を発揮し、造形活動をする子供の姿が見られるようになった。
- 具体的手だての三本柱をもとに、授業改善の視点をはっきりすることができた。
- 提示する材料については、子供の思いや造形感覚を更に生かせるように、材料の種類や量及び子供の発達に応じた提示の仕方等を考慮していく必要がある。

### 2 B分科会における成果と課題

- 柔軟で多面的な表現方法から造形活動できる題材の開発と提案方法を工夫することにより、その子らしい発想を生かした様々な試みや表現が見られるようになった。
- 対話による評価を生かすことにより、個々の子供のつまずきや要求を随時確かめることができたため、子供が意欲を持続させながら表現に取り組むようになった。また、他者の表現のよさにも関心をもち、自分の表現に生かす姿も見られるようになった。
- 表現欲求に基づく課題を明確にすることにより、自分のできそうなことややってみたいことを確かめ、積極的に作品に表現しようとする姿が見られるようになった。また、次の題材への意欲を高めることができた。
- 個々の子供の表現欲求に柔軟に対応するとともに、題材開発を含めた多様な学習指導と評価の方法の研究を継続させ、子供本来の表現について、深く追究することが必要である。

### 3 研究のまとめ

今回の研究では、子供の思いを生かし「豊かな造形感覚をはぐくむ」手だての追究と、子供の内発的な表現欲求に基づいた「豊かな表現力をはぐくむ」手だての追究がなされた。二つの分科会における取り組みは、相互関連させ深めていくことにより、真に子供の思いに根差した豊かな表現を実現することが分った。今後は他の視点からも子供の思いや願いを見とり、子供のよさが発揮できる授業づくりへの方策を追究し、授業改善を進めることが重要である。